

ミサゴ

Pandion haliaetus haliaetus
(Linnaeus)

タカ目
FALCONIFORMES

タカ科
Accipitridae

カテゴリー

大分県 準
環境庁 準

選定理由 魚類の化学的汚染により、世界的に個体数が減少している。県内の繁殖個体数は大変少なく、釣り人の営巣地への接近により繁殖活動が妨害される危険性が高い。

県内分布 全域の海岸部、大きな河川、大きなダム湖に生息する留鳥。

分布域 北海道では夏鳥、本州、四国、九州、琉球諸島で留鳥。中国東北部、サハリン、カムチャツカで繁殖。中国南部、フィリピンでは留鳥。

生息環境 海岸部、河口、湖沼などに生息し、大木の樹上や岩や崖の上で営巣する。水面を泳ぐ魚を空中からとって食べる。

現 状 県内の繁殖個体数は数十羽程度と推定される。冬季は越冬個体が増加する。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

ハチクマ

Pernis apivorus orientalis
Taczanowski

タカ目
FALCONIFORMES

タカ科
Accipitridae

カテゴリー

大分県 準
環境庁 準

選定理由 個体数が非常に少ない。営巣に用いる低山帯の高木が減少している。

県内分布 低山の林に生息する夏鳥。

分布域 北海道、本州、四国の丘陵から低山帯では夏鳥。朝鮮半島、中国東北部で繁殖。フィリピン、ベトナムで越冬。

生息環境 成熟した森林の樹上に営巣し、ハチ類の幼虫やサナギを巣ごととって食べるが、トカゲ、ヘビなども食べる。

現 状 県内では繁殖の確認はされていないが、繁殖期にも観察されており、繁殖している可能性が高い。熊本では繁殖記録がある。繁殖期の個体数は数十羽程度と推定される。秋の渡りの時期には1,000羽程度が西に渡っていく。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ

オオタカ

Accipiter gentilis fujiyamae
(Swann et Hartert)

タカ目
FALCONIFORMES

タカ科
Accipitridae

カテゴリー

大分県 Ⅱ
環境庁 Ⅱ

選定理由 繁殖地である里山域の森林が開発されたり樹種変換が行われ、繁殖に適した環境が減少している。飼育や剥製にするための捕獲圧も大きい。

県内分布 県内全域の平地から低山帯に生息する冬鳥。

分布域 北海道、本州では留鳥。四国、九州では冬鳥。種オオタカはウスリー、シベリア、カムチャツカで留鳥。朝鮮半島、中国南部で越冬。日本に生息する亜種オオタカは日本固有の亜種。

生息環境 平地から低山帯の混合林に生息する。巣は、アカマツなどの針葉樹の大木に作る。林縁や開けた農耕地などで、ハト、カモ類など中型の鳥類を捕食する。

現 状 県内では繁殖の確認はされていないが、繁殖期にも観察例がある。熊本では繁殖が確認されている。繁殖期の個体数は十羽よりも少ないと推定される。

備 考 国内希少野生動物種、ワシントン条約附属書Ⅱ